

読む

物語の人物像を読み取る(1)

名前

こたえ

物語では文章の最初の方に、主人公の名前や見た目、性格や考え方などいろいろなことが書かれています。この主人公が**どんな性格なのか？** **何が得意なのか？** **今の様子はどんなだ？** などを分かって読むことはとても大事なことです。

次の文章は、それぞれの物語の最初の部分をぬき出したものです。その中から主人公のことについて書いていることを読み取ってみましょう。

やってみよう

木に白い美しい花がいっぱい咲きました。木は自分のすがたがこんなに美しくなったので、うれしくてたまりません。けれどだれひとり、「美しいなあ」とほめてくれるものがないので、つまらないと思いました。木はめったに人の通らない緑の野原の真ん中にぼつんと立っていたのであります。

木はどこに立っていますか。

めったに人の通らない緑の野原の真ん中

木はなぜうれしくてたまらないのですか。あてはまるもの に をつけましょう。

- * 自分のすがたが美しくなったから ()
- * 友だちがあいにくしてくれたから ()

木はだれかにしてほしいことがあります。それはどんなことですか。あてはまるもの に をつけましょう。

- * 「さみしくない」と声をかけてほしい。()
- * 「美しいね」とほめてほしい。()

上の部分で出てくる人物は何人ですか。

3人

おじいさんにとって古だぬきはどんなためきですか。あてはまるもの に をつけましょう。

- * やさしい ()
- * わるい ()
- * えらい ()

「ころや土くれをおじいさんのつしろから投げつけました。おじいさんがおこって追っかけますよ、すばやく逃げて行ってしまいます。しほはびくすびくした。あいかわらずいたすらをしました。」

(楠山正雄「山」かちかす山「よろ」)

やってみよう

自分が「木」になっ
たつもりで読んで
いくと気持ちも想
像できるね。



(新美南吉「木の祭り」「より」)



上の文に直接書いてね

前の問題でそう答えたのはなぜですか。考えのもとになった部分を上の文章から選び、線を引きましょう。



ここがポイント

物語には、多くの場合、最初の方に「主人公の見た目や性格、考え方など」が書かれています。

なぜかというところ、物語は、その主人公がいろいろな出来事を通して、成長したり、考え方が変わったりとという変化を描くことが多いからです。

ですから、主人公の人物像をとらえることは、物語を読む上で、とても大切なことなのです。



やってみよう①

ここでは、文章を読んでいくとわかることが問題になっています。主人公のいる場所、様子、会話やひとりごとなどは見つけやすいものなので、しっかりチェックしておきます。

「木」は人ではありませんが、この物語では登場人物となります。人ではなくても、物語に出てくるもので、おしゃべりをするものはすべて登場人物だと考えていいですよ。もし、あなたが作った物語で、消しゴムがしゃべったら、それでも登場人物です。



やってみよう②

ここでは、みなさんがよく知っている昔話をみてみます。文章の中から次のようなことが分かります。

- ・いつ…むかしむかし
- ・どこで…あるところ
- ・だれが…おじいさんとおばあさん
- ・どうした…すんでいた
- ・おじいさんが畑で働いているとためきが出てきた
- ・ためきは、畑のものを荒らした
- ・ためきは、おじいさんに石や土を投げつけた
- ・おじいさんが追いかけるとためきはすばやく逃げた
- ・ためきは、しばらくするとまたやって来ていたずらをする

登場人物は、おじいさんとおばあさんと古だめきです。答えは三人でも二人と一ぴきのどちらでもかまいません。

ためきの行動から「わるい」を選んだと思います。そう思ったわけは、必ず「文章の中のココだ！」と言えるようにしましょうね。



様子や行動を表す言葉とは

様子を表す言葉には次のようなものがあります。

ゆっくり いそいで
おいしそうに びくびく
ゆらゆら こわこわと
のようになど

行動を表す言葉は実際にしたことを言葉にしたものです。

飛びこんだ うつむいて
にぎりしめる のみほす
天をあおぐ 走りぬげる

これらの言葉には、登場人物の気持ちや性格が表れています。

たとえば、「にぎりしめる」という言葉は「にぎる」よりも強い感じがしますね。

さらに、「母にもらったお守りをぎゅっとにぎりしめて…」となる、母への思いが「ぎゅっと」という言葉でさらに強く感じます。

このようにして、書かれている言葉を自分の経験に置きかえて考えていくと、人物像が見えてくるようになります。

読む

物語の人物像を読み取る(2)

名前

こたえ

次の文章を読み、以下の問いに答えましょう。

ゴーシユは町の活動写真館でセロを弾く係りでした。けれどもあんまり上手でないという評判でした。上手でないどころではなく実は仲間の楽手のなかではいちばん下手でしたから、いつでも楽長にいじめられるのです。

ひるすぎ、みんなは楽屋にまるくならんで、今度の町の音楽会へ出す第六交響曲の練習をしていました。トランペットは一生けん命歌っています。

ヴァイオリンも二いる風のように鳴っています。クラリネットもボーボーとそれに手伝っています。

ゴーシユも口をりんと結んで眼を皿のようにして楽譜を見つめながらもつ一心に弾いています。

にわかにはたつと楽長が両手を鳴らしました。みんなぴたりと曲をやめてしんとしました。楽長がどなりました。

「セロがおくれた。トオテテ テテテイ、ここからやり直し。はいっ。」

みんなは今の所の少し前の所からやり直しました。ゴーシユは顔を真っ赤にして額に汗を出しながら、

やっといま言われたところを通りました。ほっと安心しながら、つづけて弾いていますと楽長がまた手をぱつとうちました。



活動写真館…映画館のこと

セロ…チェロという楽器

楽手…楽器を奏でる人

宮沢賢治「セロ弾きのゴーシユ」「より

物語文では、登場する人物について外見の様子や性格、考え方などの「人物像」を正しくとらえておくことが大切です。



やってみよう

【1】ゴーシユは何をしている人ですか。あてはまるものをつけましょう。

*セロを弾く係 ()

*トランペットを吹く係 ()

*合奏団の楽長 ()

【2】ゴーシユの演奏の評判はどんなものですか。九文字で抜き出しましょう。

あんまり上手でない

【3】ゴーシユは楽長にいつもいじめられています。それはなぜですか。あてはまるものをつけましょう。

*いつも遅刻ばかりしてくるから ()

*演奏が一番下手だから ()

*一生けん命で楽長を見ていないから ()

【4】線から、ゴーシユの様子を書き抜きましょう。

口を **りんと結んで**

眼を **皿のようにして**

楽譜を **見つめながら**

もう **一心** に弾いています。



ここがポイント

人物像をとらえて読むのは、物語文を楽しく味わうために必要なことです。読み手であるあなたが、主人公の姿や性格などを想像するために、次のことに注意して読み取ってみましょう。

主人公の名前や年れい、住んでいるところなど

(名札や名刺に書くようなことと考えればいいですね。)

主人公の見た目

(体つきや動作、服そうなど)

主人公の性格や考えていること

(地の文に書いてあるときもありますが、会話文には、特に注意しましょう！)

【1】最初の文に、名前といっしょに書いてある部分ですが、読んでいくと他の登場人物が出てきますね。その登場人物についてもきちんと読み取っておき、**会話文など、だれの言葉かとらえながら読む**といいでしょ。

【2】ここでは問いの文の中にある「**評判**」という言葉を手がかりに探してみましょ。「**評判**」といっつのは、他の人のうわさのことですから、「**ゴーシユ**の演奏はだれがきいても下手だった」といっつことが想像できますね。

【3】いじめられたといっつことは本文の四行目で分かります。それが、本当かどうかは、その後の文章の中に書かれています。他の二つの理由については、どちらも本文中には書かれていないことですね。

【4】「**ゴーシユ**の演奏の様子がよく分かる**描写**です。 **一生懸**命を表す**工夫**が見られますね。

【1】から【4】の描写からわかる「**ゴーシユ**」の人物像は



- ・「**ゴーシユ**」はセロの演奏を行う人だ。
- ・セロの演奏はあまり上手ではなく、それが原因で楽長にいじめられている。
- ・「**ゴーシユ**」はセロの演奏に一生懸命に取り組んでいるとてもまじめな性格だ。
- ・楽長に怒られないように緊張しながらセロを弾いている。

「**ゴーシユ**」の人物像を、あなたはどのよう
に感じましたか。そして、このあと物語が
進むにつれて「**ゴーシユ**」ほどのような成長
や変化をしていくのでしょ。そう考える
と、物語の登場人物の人物像をしつかりと
らえておくことは物語を楽しく読む「ツナ
り」のともいっつね。

最後、「**ゴーシユ**」に対する**評価**は次のよう
に変わります。

「**ゴーシユ**君、よかったぞお。あんな曲だけれど
もここではみんなかなり本気になって聞いてた
ぞ。一週間か十日の間、すいぶん仕上げたなあ。
十日前とくらへたらまるで赤ん坊と兵隊だ。やる
うと思えばいつでもやれたんじゃないか、君。」
仲間もみんな立って来て、「よかったぜ」「**ゴー
シユ**にいいました。

さて話の中で何が起ったのでしょね。

「セロ弾きの**ゴーシユ**」は宮沢賢治
の作品です。宮沢賢治の他の作品に
は「注文の多い料理店」「やまなし」
「銀河鉄道の夜」「どんぐりと山猫」
などがあります。教科書で読んだ人
も多いと思います。宮沢賢治の他の
作品もぜひ読んでみてください。

二人の若いしんしが、すっかりイギリスの兵隊の形をして、びかびかする鉄砲てつぱうをかついで、白くまのような犬を二ひき連れて、だいぶ山おくの、木の葉のかさかしたところを、こんなことを言いながら、歩いておりました。

「ぜんたい、ここの山はけしからんね。鳥もけものも一ひきもいやがらん。何でも構わないから、早くタンタアーンと、やってみたいもんだなあ。」

「しかの黄色な横つばらなんぞに、二、三発おみまいもうしたら、ずいぶん痛快うれだろうねえ。くるくる回って、それからどたつとおれるだろうねえ。」

それはだいぶの山おくでした。案内してきた専門せんの鉄砲うちも、ちよつとまごついて、どこかへ行ってしまったくらいの山おくでした。

それに、あんまり山がものすごいので、その白くまのような犬が、二ひきいっしょにめまいを起こして、しばらくうなつて、それからあわわわはいて死んでしまいました。



「実にぼくは、二千四百円の損害そんがいだ。」

と、一人のしんしが、その犬のまぶたを、ちよつと返してみて言いました。

「ぼくは二千八百円の損害だ。」

と、も一人が、くやしそくに、頭を曲げて言いました。

(富沢賢治「注文の多い料理店」より)

やってみよう

あなたは、この若いしんしの人物像から感

じたこと、思ったことを自分なりに書いて

Blank writing area for student response.

【1】「二人の若いしんし」はお金持ちであると考えられます。それを表す表現を次から一つ選びましょう。

* すっかりイギリスの兵隊の形をして ()

* びかびかする鉄砲をかついで ()

* 木の葉のかさかしたところを ()

最初の段落では、「イギリスの兵隊の形」びかびかする鉄砲「白くまのような犬をつれて」という登場人物の姿が描かれています。お金持ちだと想像させるのは「びかびかする」から高価なものと考えられるからです。

【2】線の言葉から想像できるしんしの気持ちを次から一つ選びましょう。

* えものがとれないのは、この山のせいだ。()

* この山は動物がいないのでさびしいな。()

* 動物を見つけれない自分が情けない。()

言葉の中から、自分勝手なものの考え方がうかがえます。さげすんだ言い方が感じられますね。

【3】犬が死んだときのしんしの気持ちに当てはまるものはちよつとでしょう。当てはまるものに○をつけましょう。

* せつかく高いお金を払って買ったので、とても損をした気分だ。()

* かわいがっていた犬だったから急に死んでかわいそうだし、くやしい。()

犬のことを心配する言葉もなく、お金のことだけをくやしがる姿がえがかれていますね。

【4】上の文のしんしの様子や行動、会話からどんな人物として描かれていますか。□にあてはまるものから選び記号で書きましょう。

金持ちである。

自分勝手である。

(イ)

ア. 生活のために狩りをしている。

イ. 生き物を殺すことを遊びだと考えている。

ウ. 山の生きものに敬意を持っている。

なんでも構わないから〜」しかの黄色な〜ずいぶん痛快だろうね」などの会話や犬の死に対する態度から想像される部分ですね。